

タネから楽しみをもらおう

動物応用科学科 4年 坂本有加

去年の「オブザベーション」に、庭のプランターにシャガを植えたこととキュウリとナスを育てたことを書きました。シャガは花を咲かせて今も元気に増えています、ナスとキュウリは枯れたので、今は彼らのプランターが空いています。そこで今年はこのプランターを別の目的で使うことにしました。散歩で拾ってきたドングリやヤブラン、食べ終わったアボカド、モモ、トマト、アメリカンチェリーなどのタネを何でも植えています。ドングリとヤブランは芽を出して少しずつ大きくなってきましたが、アボカドやモモたちはまだまだ芽を出してはくれません。ドングリは確かアラカシで、2つ埋めていたら芽が出ました。驚いたのは1つのドングリから2本の芽が出て、初めから4枚ずつ葉っぱを出したことです。毛の生えた茶色の葉っぱが光にあると銀色に光ってきれい。と思ったら次の日には鮮やかな黄緑色に変身してさらに驚きました。ドングリ初心者の中には知らないことがいっぱいです。

ヤブランは近所に植えられていたものが実をつけていたのでもらってきました。12個はそのまま土に埋めて、さらに12個は紫色の皮をむいて埋めたのですが、そんなことはお構いなしに次々に葉っぱを出してきています。でも、少しだけ、皮なしの方が早く芽を出しました。

タネをどんどん埋めるうちにプランターは満員になってしまったので、発泡トレイや牛乳パックを使って家の中でも発芽させています。ゴールデンウィークにキウイを食べたので、タネを30個、脱脂綿の上に置いておきました。3週間くらい乾かないように気をつけていたら、2つのタネから芽

が出ました。家でキウイがとれるかかもしれないと思って「ゴールデンウィークちゃん」という名前までつけたのですが、高さが1cmくらいになったときに溶けるように枯れてしまいました。最近はお中元にメロンを頂いたので、おいしく頂いたあとにタネを土の上に並べました。今月は野口さんのインドサイ実験があり、サイにタネを食べさせて糞から回収するのですが、メロンのタネも使いました。サイの糞から出てきたメロンのタネから芽が出ているのがかわいらしかったので、あのかわいい双葉が家でも見られると思ってわくわくしていました。さてメロンには大量のタネが入っていて全部を並べるスペースはないので、選別をすることにしました。水に浸して沈むものと浮くものに分けると、沈むのは18個だけでした。何百もある他のタネは全部水に浮いているので、適当に30個を選びました。それぞれを土の上において水やりをすると、水に沈むタネは2日くらいすると白い根を出して、すぐに芽を伸ばします。うす黄色のタネの殻をつけたまま伸びてくるところがかわいい。と思っていたらぐんぐん伸びてきて今はまるでカイワレダイコンのようになりました。かわいいのは最初だけで、1日に5cmくらい伸びるのでちょっとこわいです。なんだかメロンの意志を感じます。水に沈んだ18個のうち9個から芽が出ていますが、水に浮いたタネはひとつも芽を出していません。こんなに違うとは思っていませんでした。

キウイのように小さいタネはよく噛まずにそのまま飲み込んでしまうし、メロンのタネは食べられないから捨ててしまうけれど、生きる力を持っていることを教えても

らいました。タネはドングリのように拾えば買わずに済むので、お金のかからないこ

の趣味はしばらく続きそうです。



キウイの「ゴールデンウィークちゃん」

メロンたち